

東日本大震災から13年を経て、宮城県では被災地の復興が進むと同時に、多くの震災伝承施設がオープンしました。それぞれに思いの込められた展示施設やプログラムの特徴を、エリア別にご紹介します。

宮城の復興と伝承



※臨時休館日など詳しくは各施設にお問い合わせください。



気仙沼・本吉エリア 海とともに生きる三陸の人と文化を学ぶ

施設1 南三陸311メモリアル



伝承と学びのプログラム

感性に働きかけるラーニングプログラム

1名から申し込める「ラーニングプログラム」は、町民たちの証言等をもとに構成されたプログラムです。映像を鑑賞するだけでなく、町民の証言をもとに提示される問いに対して、「もし、自分がそこにいたら、どう考え、行動するか」を考え、1分ほどまわりの人と話し合います。100%の正解がない問いに対して、思考を巡らせ、悩み、考えることができます。



南三陸町役場提供

1 対話の時間を含むラーニングプログラム

2 自然と人間の関係に向き合う現代アート

感じる事、考える事にフォーカスした学びの場

見学者に津波災害を自分ごととして感じてもらうために工夫された体験型のプログラムが特徴。証言映像をもとに津波災害と避難行動を具体的に考える「ラーニング」、地域住民の証言や写真、映像を継続的に収集・保存しつつ展示する「アーカイブ」、震災をテーマにした現代アート作品の鑑賞を通して自然と人間との関係や命について考える「フィールドワーク」の3つをミッションとして提供しています。

被災の傷跡 南三陸町旧防災対策庁舎



予想を超える津波の高さにより、43名の地域住民と町職員が亡くなられた旧防災対策庁舎を保存。周囲の被災建物のほぼ全てが解体された中、震災復興祈念公園のシンボルとして悲劇を伝え続けています。

DATA 南三陸311メモリアル
宮城県本吉郡南三陸町志津川字五日町200-1
開館時間:9:00~17:00 休館日:火曜、年末年始(12月29日~1月3日) TEL:0226-28-9215



施設2 気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館



伝承と学びのプログラム

中高生も語り部になる「みんな語り部」

通常は予約制(有料)で「語り部ガイド」を行っています。毎月11日の月命日やその前後の土日のどちらか(要問合せ)には「語り部の話を聞いた誰もが、次に誰かの語り部になる」というコンセプトのもと、地元の中高生が無料で語り部ガイドをしています。市民有志の語り部団体に、地元の中高生約30人が登録しています。



1 被災当時の校舎をそのままの姿で保存

2 地元の中高生が語り部ガイドとして活躍

学校の備品や流入物までが保存され 時が止まったような校舎

海から約250mの位置にあり、13mを越す巨大津波で被災した「気仙沼向洋高等学校」の旧校舎を遺構として保存するとともに、展示や研修会場を備えた伝承施設を併設。遺構内部は机や椅子にとどまらず、散乱した教科書や教室の備品なども被災した姿のままに展示しています。伝承施設は豊富な写真や映像展示で津波被災を多角的に学ぶことができ、各種体験プログラムも開催しています。



被災の傷跡

校舎3階のベランダから教室内に流入した車や、建物の衝突で大きく破損した外壁、校舎と校舎の間に折り重なった車などが保存され、津波の強烈な破壊力を直接的に感じることができます。

DATA 気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館
宮城県気仙沼市波路上瀬向9-1
開館時間:9:30~17:00(4月~9月)、9:30~16:00(10月~3月) 休館日:月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月30日~1月4日 TEL:0226-28-9671



施設3 リアス・アーク美術館



伝承と学びのプログラム

自ら感じ、考えるための博物館展示

津波伝承のみを目的とするのではなく、地域の歴史と文化の中で自然と向き合って生きることを考えるため、館全体の展示を見ることで総合的に地域と人と自然災害について学ぶことができる展示設計になっています。



1 地域の歴史文化の中で津波を考える

2 写真や被災物を物語とともに展示

地域文化の中で津波を知り、人と自然の関わりを学ぶ

東北ゆかりの現代美術と地域の歴史民俗を展示する総合博物館的な美術館に、津波についての常設展を設置。三陸沿岸部を繰り返し襲ってきた津波も地域文化を形成する重要な要素であると考え、学芸員自らが東日本大震災発生直後から2年に亘り調査・収集した写真及び被災した物品を展示。明治29年、昭和8年、昭和35年の津波を伝える歴史資料も展示しています。



被災の傷跡

「被災した物品は「瓦礫」ではなく誰かの大切な日常の記憶が詰まった被災物」と考え、その一つ一つにまつわる記憶や思いを伝える物語を添えて展示しています。

DATA リアス・アーク美術館
宮城県気仙沼市赤岩牧沢138-5
開館時間:9:30~17:00 休館日:月曜、火曜、祝日の翌日(土日を除く) TEL:0226-24-1611





石巻エリア

日常を奪う津波のリアルを学ぶ

施設 4

みやぎ東日本大震災津波伝承館



1 宮城県全体の被災状況を伝える

2 被災体験者などのインタビュー映像が豊富

宮城県の伝承施設の玄関口として 広域の人びとの声を伝える

被災前は1,885世帯が暮らしていた石巻市南浜地区に、石巻南浜津波復興祈念公園とともに整備された施設です。県内全域の被災状況や各地の伝承施設について、パネル等でわかりやすく展示しています。また、各地の被災体験者や、語り部活動を行う人、復興に取り組む団体などのインタビュー映像が豊富（79団体90人）に展示され、命を守る行動についてリアルな映像で学べる映像シアターもあります。

被災の傷跡 門脇保育所跡（石巻南浜津波復興祈念公園）



石巻南浜津波復興祈念公園は、東日本大震災でお亡くなりになった生命に対する追悼の場として整備され、震災の記憶と教訓を後世に伝えています。門脇保育所跡の基礎などの遺構が保存されています。

DATA みやぎ東日本大震災津波伝承館
宮城県石巻市南浜町2丁目1-56
開館時間：9:00～17:00 休館日：月曜（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月4日）※毎月11日は曜日・祝日にかかわらず開館 TEL:0225-98-8081



石巻南浜津波復興祈念公園
宮城県石巻市南浜町2丁目1-56
開館時間：9:00～18:00（4月～9月）、9:00～17:00（10月～3月） TEL:0225-98-7401



伝承と学びのプログラム

県内の様々な語り部の話が聞ける

毎週土曜日に県内各地からゲストを招いて「語り部講話」を実施。様々な立場で防災や復興、伝承に取り組む方のお話を予約なしで聞くことができます。県内の語り部の育成と相互理解を目指し、公益社団法人3.11メモリアルネットワークとも連携しています。



その他周辺の伝承施設・震災遺構



石巻市震災遺構大川小学校
宮城県石巻市釜谷字葦島94
TEL:0225-24-6315



東日本大震災遺構 旧女川交番
宮城県牡鹿郡女川町海岸通り1
TEL:0225-24-8118
（女川みらい創造（株））

震災伝承みやぎコンソーシアム

県では、震災の記憶や教訓を広く後世に伝えるため、伝承団体や学術機関、報道機関、企業、行政機関など、多様な主体である会員同士がゆるやかに連携し、一丸となった震災伝承の取組を目指して、令和4年9月に「震災伝承みやぎコンソーシアム」を設立しました。

随時会員募集中
詳細はこちら▼



施設 5

石巻市震災遺構門脇小学校



1 津波火災の痕跡を残す唯一の震災遺構

2 深く心に問いかける工夫がされた展示

被災のリアルとそこにあった日常を同時に伝える
津波火災の壮絶な様相を伝える校舎の遺構と、旧特別校舎を利用して新たに設けられた様々な展示室を巡ることで、被災直前までそこにあった子どもたちの日常や何気ない日々大切さ、避難行動を自分ごとにする事の重要性について見学者に深く語りかけるよう工夫されています。被災した車両や応急仮設住宅の実物、石巻平野を繰り返し襲った津波の痕跡も展示されています。

伝承と学びのプログラム

心に問いかける展示「記憶を紡ぐ」

展示館となっている特別教室棟の3階に、学芸員自らの被災体験と様々な思いを抱える市民の方々の証言をもとに「災害から学ぶべきことは何なのか」「命とは、生きるとは何か」を深く伝えるために創作された言葉と絵が展示され、訪れた人が自分の人生を重ねて考えることができます。



被災の傷跡

遺構として保存された校舎は、床から1.8mの津波が襲った1階、火災で燃えた2階、全焼した3階で様子が異なり、複合災害の恐ろしさと避難行動を深く考える必要性を伝えています。

DATA 石巻市震災遺構門脇小学校
宮城県石巻市門脇町4丁目3-15
開館時間：9:00～17:00 TEL:0225-98-8630
休館日：月曜（祝日の場合は翌日）、年末年始（12/29～1/3）



施設 6

東松島市震災復興伝承館



1 駅のプラットフォームを遺構として保存

2 復興の過程や「今」も知ることができる

市民の日常生活とともに津波災害を考える

震災遺構の旧野蒜駅プラットフォーム、お亡くなりになった方々の慰霊碑を備えた祈念広場と伝承館が東日本大震災復興祈念公園内に一体的に整備されています。1階には、東松島市の復旧・復興状況や、市の取組の紹介、全国から応援のために派遣された自治体職員の名板などがあり、東松島市の物産も販売しています。2階では被災時の様子を写真や映像シアターで克明に伝える展示を行っています。



被災の傷跡

旧野蒜駅プラットフォーム

住民が日常的に使用していた駅を震災遺構として保存しています。ゆがんだ線路や折れ曲がった柱などが津波の威力を伝えています。

DATA 東松島市震災復興伝承館
宮城県東松島市野蒜字北余景56-36
開館時間：9:00～17:00 休館日：毎月第3水曜、年末年始 TEL:0225-86-2985



伝承と学びのプログラム

地元住民による施設ガイドや「公開語り部」

伝承館には地元住民のスタッフが常駐し、説明を受けながら施設を見学することができます。また、おおよそ月1回、防災士など住民有志で組織する市民グループ「SAY'S（サイズ）東松島」が企画する「公開語り部」を実施し、誰でも参加することができます。





仙台沿岸エリア

市民力による防災・減災を学ぶ

施設 7

名取市震災復興伝承館



1 現地再建した
まちの中にある伝承館

2 市民による
伝承活動が盛ん

復興したまちの活気も感じることができる

甚大な津波被害を受けながらも、海岸沿いの防潮堤と、さらに内側に建設したかさ上げ道路による多重防御の考え方で現地再建した閑上地区にある伝承館。津波被害についての映像や展示、簡単な防災体験のコーナーがあります。当施設の周辺にも被災の記憶を伝える展示や震災メモリアル公園が点在しており、災害について学びながら復興した閑上のまちを楽しむことができます。

■ 伝承と学びのプログラム

市民団体による多彩な伝承活動

周辺では複数の市民団体が伝承活動を実施しており、閑上地区のガイドや語り部講話、防災・減災ワークショップなど、ご希望に応じてご紹介することが可能です。



被災の傷跡 名取市震災メモリアル公園



「遺構と伝承ゾーン」に津波から逃れた人を守った歩道橋の桁や商店街で被災したずらん灯が残されており、日和山では1933年の昭和三陸地震津波を記した震嘯(しんしょう)記念碑が見られます。

DATA 名取市震災復興伝承館
宮城県名取市閑上東1丁目1-1 開館時間:9:30~16:30(4月~11月)、10:00~16:00(12月~3月)
休館日:火曜(火曜が祝日の場合は翌日)、年末年始(12月29日~1月3日) TEL:022-393-6520



その他周辺の伝承施設・震災遺構



せんだい3.11メモリアル交流館
宮城県仙台市若林区荒井字沓形85-4(地下鉄東西線荒井駅舎内)
開館時間:10:00~17:00 休館日:月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、祝日の翌日(土・日曜、祝日を除く)、年末年始 TEL:022-390-9022



塩竈市津波防災センター
宮城県塩竈市港町1丁目4-1
開館時間:9:00~17:00 休館日:月曜・第2火曜日(当該日が祝日の場合は翌平日)、年末年始(12月29日~1月3日) TEL:022-794-7232



松島町石田沢防災センター
宮城県松島町松島字石田沢12-2
開館時間:9:00~17:00(3月~10月)、9:00~16:00(11月~2月)
休館日:水曜、12月29日~1月3日 TEL:022-354-5782



岩沼市千年希望の丘交流センター
宮城県岩沼市下野郷字浜177
開館時間:9:00~17:00 休館日:火曜(火曜が祝日の場合は翌日)、年末年始(12月26日~1月7日) TEL:0223-23-8577

施設 8

震災遺構 仙台市立荒浜小学校



1 320人の避難と
救助を伝える

2 地区の生活や
歴史も保存・展示

児童・地域住民を守った校舎と、 救助までの記録を展示

児童や教職員、住民など320人が屋上に避難し、難を逃れた校舎を、発災から救助までの記録とともに保存。校舎1階と2階では津波により湾曲した壁面や破損した天井、津波の跡を被災直後の写真とともに見ることができ、4階では避難開始から救助までの記録を映像や展示で克明にたどることができます。荒浜地区の歴史や文化についても紹介しています。

■ 伝承と学びのプログラム

避難から救助までの克明な記録を見られる

4階展示室「3.11荒浜の記憶」では、14時46分の地震発生から避難者全員が救出されるまでの27時間の状況を時系列でたどることのできる展示に加え、当時の校長や町内会長などの証言や消防ヘリの映像を交えた約17分の映像を上映しています。



被災の傷跡 震災遺構 仙台市荒浜地区住宅基礎
荒浜小学校から徒歩7分の場所に、津波により被災した住宅の基礎部分や浸食された地形の一部を保存し公開しています。津波の威力やかつての暮らしの様子を説明する案内看板が設置されています。

DATA 震災遺構 仙台市立荒浜小学校
宮城県仙台市若林区荒浜字新堀端32-1
開館時間:9:30~16:00(9月~6月)、9:30~17:00(7月~8月) 休館日:月曜及び第4木曜(祝日を除く)、年末年始 TEL:022-355-8517



施設 9

山元町震災遺構 中浜小学校



1 当時の教職員らの
解説が聞ける

2 見学前後に活用できる
ガイドブック

遺構見学と館内ガイドで防災について深く学べる

被災した当時のまま保存された校舎の見学、館内ガイドによる避難時の状況の説明、展示内容が詳しく書かれたガイドブック(有料)などで、学校での防災を総合的に学ぶことができます。遺構整備のプロセスや見学体験の総合的なデザイン手法が評価され、2020年度「グッドデザイン賞(ベスト100)」並びに防災・復興分野の「グッドフォーカス賞」を受賞しました。

■ 伝承と学びのプログラム

当時の小中学校職員の話を通じて直接聞ける

館内ガイドや予約制の語り部ガイドとして当時の小中学校職員が参加しており、震災当日の様子や学校でのことなど、具体的な解説を聞くことができます。屋根裏での避難の様子は常時解説が聞けるほか、予約制のガイドは施設見学に随行して詳しく解説してくれます(有料)。



被災の傷跡 児童・教職員・地域住民90人が避難した屋根裏の倉庫が当時の様子そのまま保存されており、寒さと余震に耐えながら過ごした一夜を自分のことのように想像することができます。

DATA 山元町震災遺構 中浜小学校
宮城県亶理郡山元町坂元字久根22-2
開館時間:9:30~16:30 休館日:月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、年末年始(12月28日~1月4日) TEL:0223-23-1171

